

令和5年度 第3回運営委員会を開催

2月2日(金)、令和5年度第3回運営委員会を、参集とオンラインによるハイブリッドで開催しました。運営委員会は、大野委員長からの「この3年間、皆さんの御協力によりここまで進めてきた。多くの成果を感じているところである。」との挨拶で始まり、桑名副校長(マイスター・ハイスクールCEO)から、今年度の事業の取組、定性的目標及び定量的目標の評価結果、次年度に向けた体制などについての報告があり、運営委員による検証・評価を行いました。

今年度の取組

今年度の取組について、10月の第2回運営委員会以降に実施した内容について、報告がありました。

■ 1次産業間連携による地域資源理解

日高振興局農務課、林務課、水産課との連携により、農業用水利施設やダム、サケマスふ化場、森林施業地の視察や水産業の学習など、地域産業について、広く学習しました。



漁具や昆布漁の実態の学習の様子

■ 栽培試験におけるクラウドファンディングの活用

「公立高校ガバメントクラウドファンディング事業」を活用し、バイオ炭を活用したハウレンソウの栽培試験を無加温で実施し、一般のものとは遜色ない品質のものを収穫しました。



ハウレンソウを管理している様子

■ ウィンターフェア(販売会)の開催

12月の販売会において、ハーバリウムの製作体験や、開発した商品の試食、プロジェクト学習のポスター発表を行うなど、町民の方々と交流を深めました。



研究の成果を説明している様子

■ 成果発表会の開催

12月に3年間の集大成として成果発表会を開催し、各学科の代表生徒による発表や、グループ別に設定したテーマごとに、地域の外部講師の方への提言及び討議を行いました。



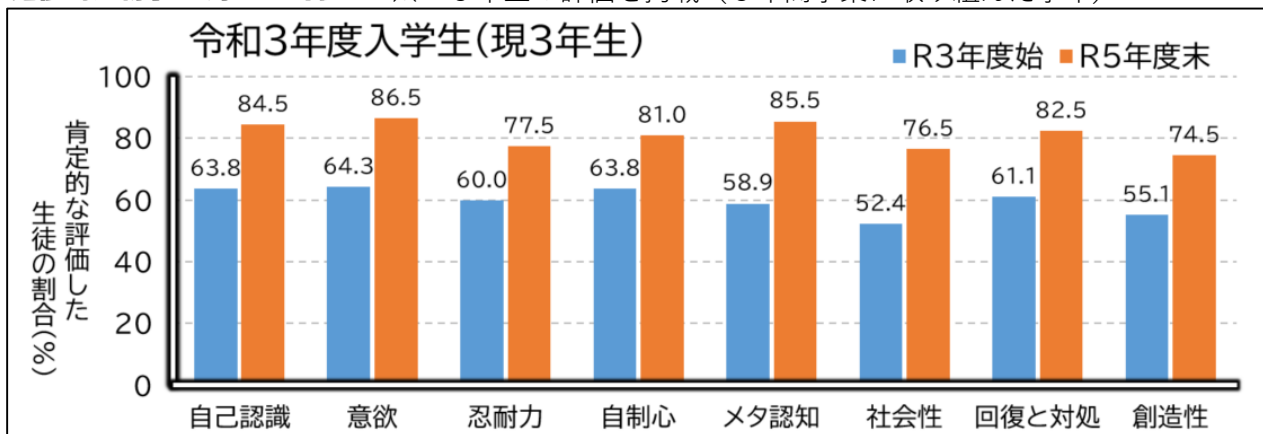
地域の外部講師との討議の様子

定性的目標及び定量的目標の評価結果

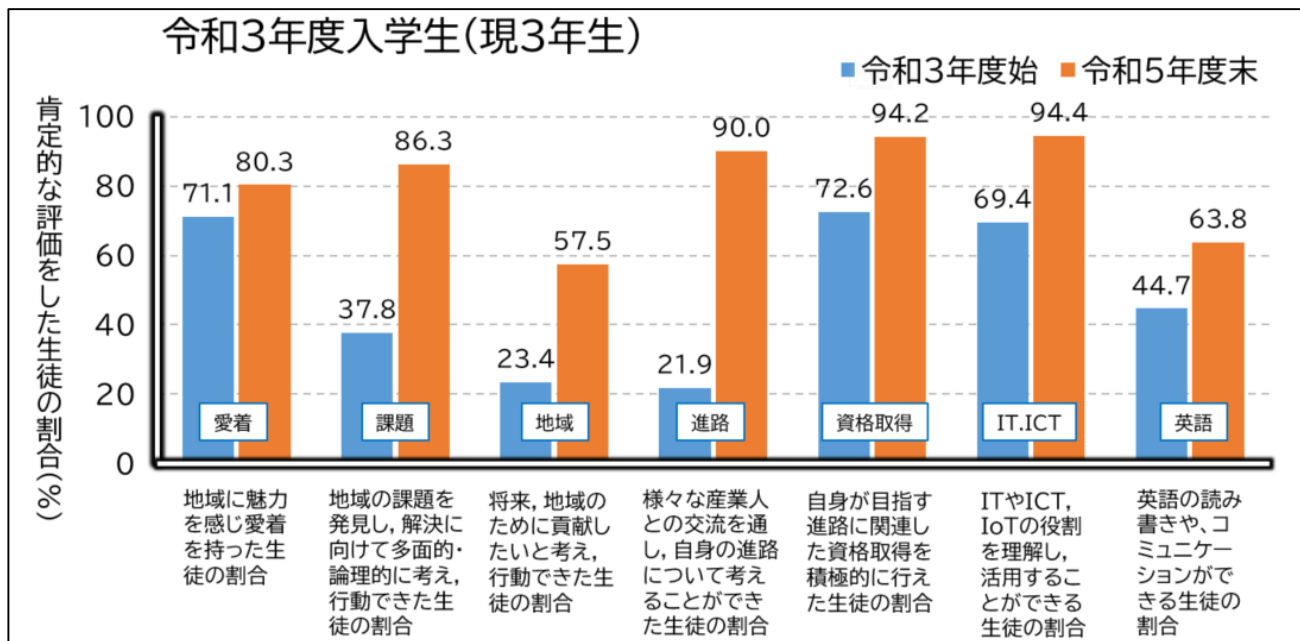
定性的目標及び定量的目標に対するアンケートの結果を基に、本事業による生徒の変容について、次のとおり報告がありました。

【評価方法】全校生徒を対象にアンケートを実施し、4つの選択肢から回答。そのうち、4又は3の回答を肯定的な評価として捉え、その割合の変化で達成度や習得度を測定(年度始は6月、年度末は12月に実施)。〔4：大いにあてはまる(思う)、3：あてはまる(思う)、2：あまりあてはまらない(思わない)、1：まったくあてはまらない(思わない)〕

<「定性的目標」に対する評価> ※ 3年生の評価を掲載(3年間事業に取り組んだ学年)



- ・全ての項目で、肯定的な評価をした生徒の割合が増加した。
- ・大きく増加した順に、「メタ認知」(+26.6P)、「社会性」(+24.1P)、「意欲」(+22.2P)となった。



- ・全ての項目で、肯定的な評価をした生徒の割合が増加した。
- ・大きく増加した順に、「進路」(+68.1P)、「課題」(+48.5P)、「地域」(+34.1P)となった。

事業終了後の体制及び次年度の取組（案）

事業終了後の体制及び次年度の取組について原案が示され、方向性について確認しました。

| 令和3～5年度 | 令和6年度以降 |
|-----------------|--|
| 運営委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ●北海道静内農業高等学校コンソーシアム地域連携コンソーシアム（仮称）を設立 <ul style="list-style-type: none"> ・地域農業・馬産と食品産業の発展を支え、地域の経済・社会をけん引する人材の育成・確保に向け、産業界、行政と教育の関係者が一体となった取組を実施 ・全体会は、運営委員として連携した企業や団体等を中心に、実務担当で構成 ・全体会（1回/年）と園芸・馬事・食品などの小委員会（随時・少人数）を開催 |
| マイスター・ハイスクールCEO | <ul style="list-style-type: none"> ●学校運営体制の中でコンパクト化（管理職指導のもと、分担して対応） <ul style="list-style-type: none"> ・教務部長・・・教育課程の見直しの中心 ・農場長・・・取組全体の進捗管理、コンソーシアム（運営委員会の後継）の対応 ・学科長・・・それぞれの学科における対外的な取組の調整 |
| 産業実務家教員（獣医師） | <ul style="list-style-type: none"> ●学校運営体制の中でコンパクト化 <ul style="list-style-type: none"> ・担当教諭・・・教材作成・授業の実施、馬事関係の取組の調整 ●馬に関する専門的・実践的な学習内容は、複数の外部専門家に講師を依頼 |

運営委員による検証・評価

次年度の体制や今後の取組に対する意見

- ・本校の3年間の成果を広め、それぞれの地域で、地域産業を支える人材の育成ができるよう取り組みたい。【行政】
- ・本校とは、支援という形ではなく、パートナーシップという形で、引き続き取り組んでいきたい。【産業界】
- ・軽種馬は、産業全体で人材育成や確保が課題であるため、先生方の研修も含め、今後も協力していきたい。【産業界】
- ・農業高校だからできる研究に取り組み、地域にフィードバックすることで、地域との関わりを深めてほしい。【産業界】
- ・先生方が生徒に丁寧に対応し、SNSでの発信も効果的に行われていた。形が変わっても取組を継続してほしい。【保護者】

■ 3年間の指定事業の終了にあたって ■

本校は、指定事業を通して、地域や産業界等との連携した取組を充実させ、教育課程の改善を図りました。様々な取組により、「地域に貢献したい」「地域の課題解決に向けて取り組みたい」と考え、行動した生徒や、産業界との交流を通して、自身の進路を考える生徒が増えるなど、多くの成果を上げることができ、本事業のモデルケースとして、全国から高い評価を得たところです。

今後、各学校においても、本校の取組を参考にして、地域や産業界等と一体となった職業教育がより一層展開されることを期待しています。



「マイスター・ハイスクールだより」のバックナンバーは、高校教育課ウェブページで見ることができます。

